

## 令和4年7月定例教育委員会会議録

- 1 日 時 令和4年7月5日（火）10時
- 2 場 所 本館4階 第1委員会室
- 3 出席者 教育長 片平慎一  
教育委員 河本直子、衛藤修身
- 4 欠席者 教育委員 佐野正靖、太田かおり
- 5 事務局 教育部長 船津喜久男  
学校教育課長 松永嘉伸  
学校指導課長 森 秀輔  
教育施設課長 北原鉄也  
生涯学習課長 亀井 誠  
学校指導課課長補佐 権藤信慶  
生涯学習課課長補佐 田代磯政  
学校教育課教育総務係長 野中康伸  
教育施設課計画係長 山口研治
- 6 傍聴人 5人
- 7 議事日程 別紙のとおり
- 8 議事次第 別紙のとおり

# 定例教育委員会議事日程

令和4年7月5日（火）10時00分

## 1 会議録の承認

令和4年6月定例教育委員会会議録の承認

## 2 報告事項

- (1) 令和4年7月学校教育行事及び社会教育施設行事について
- (2) 専決処分を報告し、承認を求めることについて  
承認第10号 学校歯科医の委嘱について
- (3) 学校施設再編業務に関する報告について
- (4) 学校給食費の令和4年度値上げ分を補助する予算について
- (5) 学校再編計画の概要版について

## 3 協議事項

- (1) 令和4年度教育委員会点検評価委員会に提出する点検評価シートについて（令和3年度実績）
- (2) 令和4年度8月定例教育委員会の日程について

[開会時刻：10時00分]

船津教育部長	<p>それでは定刻になりました。</p> <p>本日の7月定例教育委員会については、佐野教育委員、太田教育委員がご欠席でございますが、半数以上の出席がございますので、定例教育委員会が成立していることをお知らせいたします。それでは、進行は片平教育長にお願いいたします。</p>
片平教育長	<p>皆様おはようございます。</p> <p>令和4年7月定例教育委員会を開催いたします。</p> <p>最初に、先日の学校訪問、ありがとうございます。</p> <p>教育委員さんの温かいお言葉を学校が受けて、また教育活動に励みたいと申しておりました。ありがとうございました。</p> <p>それでは、6月定例教育委員会会議録の承認をお願いいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
教育委員	<p>《承認》</p>
片平教育長	<p>それでは、早速報告事項に入りたいと思います。</p> <p>令和4年7月学校教育行事及び社会教育施設行事についてです。</p> <p>最初に、学校教育行事について、森課長説明をお願いいたします。</p>
森学校指導課長	<p>それでは7月の学校行事について説明いたします。</p> <p>まず共通行事についてです。</p> <p>7月20日に各小中学校において終業式を行います。翌日から夏休みに入りますが、7月21日から8月24日までが夏休みとなります。</p> <p>続いて各学校の行事です。</p> <p>小中学校ともに、学期末の個人懇談及び三者面談が行われます。</p> <p>小学校では15日、中学校では19日が1学期の給食終了日となります。また、小学校では21日から、中学校では25日から、各学校の実情に応じて学力補充教室が行われます。</p> <p>それから、今日の午後、東中・南中校区で、小学6年生を対象に中学校の体験入学が行われます。各中学校で、中学校での授業を体験する活動が行われます。</p> <p>南小では、8日に人権集会が行われます。こちらは児童会が中心となり、6年生の修学旅行の報告や読み聞かせ等が行われます。また、1</p>

5日には消防署から講師を招聘し、着衣泳水難事故防止訓練が行われます。対象は5年生です。

中間中では、8日に希望者による漢字検定が行われます。

南中では、14日に規範意識講演会が行われます。NPO法人子どもとメディアから講師を招聘し、全校生徒を対象にしたスマホ・ネットとの付き合い方についての講演となります。以上で説明を終わります。

片平教育長

ただいま学校教育行事について説明がございましたが、それについて、ご意見ご質問はございませんでしょうか。衛藤教育委員。

衛藤教育委員

適応指導教室の終業式はいつ行われるのでしょうか。

それから、25日のICT中核教員対象研修は、中間市から何人ほど参加をするのか教えてください。

それから31日の日曜日に科学の甲子園ジュニア地区大会とありますが、どのような内容で、中間市からの参加はどうなっているのかお尋ねします。

次に学校別です。夏休み中に、東小、中間小、北小、西小でICTに関する研修が入っています。具体的にどのような研修をされるのか教えてください。

次に、本日中学校の体験入学があつているということですが、もう少し詳しく教えていただけたらと思います。

最後になりますが、南中と南小で29日に小中合同研修ということで、人権教育とあります。これについても詳しく教えていただけたらと思います。

片平教育長

ただいま衛藤教育委員から6点ほど質問がございましたが、それについて、森課長回答をお願いします。

森学校指導課長

まず1点目の適応指導教室の終業式についてですが、1学期の終業式という形では行いません。子どもたちの出席状況が、その日によってまちまちなところがございますので、今回は担当者会のみで、年度の終了に式という形で行うように計画しております。

2点目です。ICT中核教員対象研修ですが、こちらは新任の校長及び教頭が対象となります。本市からは、教頭、校長がそれぞれ4名ずつ、計8名の管理職が出席するようになっております。

3点目の科学の甲子園の内容についてです。こちらは生徒3名で力を合わせて科学に関する問題を解くという大会です。北九州教育事務所管内で各地区から出てくるのですけれども、上位チームは県大会に進むようになります。県大会で優勝、準優勝となると今度は全国大会に出るということで、先まで上位大会が行われます。本市からは、中間南中学校の2年生が1チーム3名でエントリーをしております。

4点目です。東小、中小、北小、西小のICTに関する研修についてです。どの学校も校内のICT推進担当者によるiPadの具体的な授業場面での使い方の研修です。

例えば、ジャムボードというアプリを使った授業や、クラスルームの効果的な活用方法など、実際にiPadを使いながら、授業での使い方を一緒に体験しながら進めていくという研修が各学校で行われます。それから5点目の東中と南中の体験入学についてです。

こちらにつきましては、それぞれの中学校で体験授業という形になります。小学校と中学校で授業が変わりますので、例えば小学校にない教科とか、中学校の英語科など、特に中学校ならではの授業を体験してもらうための体験授業が行われます。

それから南小、南中での小中合同の人権研修です。こちらは人権センターから講師を招聘しまして、部落差別に関する基礎的な部分をきちんと捉えられる内容の研修が準備されていると伺っております。以上でございます。

片平教育長

よろしいでしょうか。河本教育委員。

河本教育委員

共通行事の26日から28日までの小学校のイングリッシュセミナーについて内容を教えていただきたいと思います。

それと、先ほど体験入学で授業を体験するとおっしゃっていましたが、とても大切なことではないかなと思います。

私自身、小学校から中学校に入った時の、授業の教科書の分厚さというか、内容が増えることにすごく戸惑ったので、そういうことを小学校の内にある程度自覚させていただいていたら、戸惑わないのではないかと思いますので、そういうことも含めてよろしく願いいたします。

それともう1つは、夏休みに入りますけど、もちろん事故に対する予防というか、そういう指導もしていただきたいのですが、コロナで世間が敏感になっており、また感染者も少し増えておりますので、

マスクのつけ方とか、たくさん集まった所にお年を召した方がいらっしやる時に、大声で騒がないといったコロナに対するマナーも教えていただけたらと思います。以上でございます。

片平教育長

イングリッシュセミナーについて、森課長お願いいたします。

森学校指導課長

小学校のイングリッシュセミナーは、県教委主催の研修でございます。小学校教員の外国語授業の能力を高めることを目的に行われます。

河本教育委員

実際に英語授業が始まって、教員の方たちは英語に対する苦手意識がすごくあって、高学年は持ちたくないということが始まる前は問題になっていましたが、中間市ではそういった状況は大丈夫でしょうか。

森学校指導課長

本市では、以前まで英語教育アドバイザーのハイン先生が中心となって、小学校教員に対しての外国語科授業の進め方について研修を進めてまいりました。

小学校教員もそのおかげで、外国語科の授業のイメージはかなりの部分で共有できており、苦手意識も払拭されてきております。

また、本市ALTが3名活動させていただいておりますので、その3名のALTと協力をしながら、効果的な外国語活動の指導ができていると考えております。

河本教育委員

とても良いことだと思います。

先生方がやはり苦手意識で教えると、子どもに伝わりますし、やはり小学校の間に英語が楽しいものであるということをまず教えていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

片平教育長

それから、夏休みの安全な過ごし方、それからコロナに関するマスク着用、これについての指導について、森課長お願いします。

森学校指導課長

まず、夏休みの安全指導については従来から行っているところで、更に近年ではコロナに対する対応についても指導が重なってきております。

河本教育委員さんがおっしゃったように、場面による対応も指導していく必要があるだろうと思います。

特に夏季は、現在でもそうですが、登下校中等は、マスクは可能な限り外す、また、友達と近くで会話をする状況でなければ、積極的に外すような指導を行い、屋外の活動についても熱中症対策の方が優先されるということをしっかりと教えております。

このことは夏休み中もちろん運用されることであるということ、それと同時に感染症対策としては、基本的な三密回避、それから手洗い等の励行につきましても例年どおり行っておりますし、家庭への啓発につきましても併せて行っているところでございます。

河本教育委員

確かに熱中症は思っていた以上に、コロナ以上に危ないという話もありますので、その辺も指導していただきありがたいと思います。

片平教育長

それでは、次に社会教育施設行事について、亀井課長説明をお願いします。

亀井生涯学習  
課長

7月社会教育施設行事の主なものを説明させていただきます。  
まず中央公民館事業でございます。

7月1日、8日、22日、29日それぞれ午前午後2回に分け、生涯学習センターにおいて、スマホによるLINE入門講座を開催いたします。内容を変えて4回連続で、定員は各12名でございます。

次に、7日木曜日10時からハーモニーホール小ホールにおきまして、成人講座きらめき大学全9回の3回目を開講いたします。

内容は、九州歯科大学の邵仁浩（ソウ インホ）先生を講師にお招きし、「新型コロナウイルス感染症に負けないための口の健康づくり」と題し講演をしていただきます。定員は75名となっております。

次に夏休み企画としまして、7月23日土曜日地域交流センターにおいて、夏休みおもしろ歴史ジュニア教室全2回の1回目を開催します。

講師は、当課社会教育係長学芸員の吉田が担当しております。

小学生5年生から中学生まで定員10名を対象に、資料館にある土器や資料を実際に触って、歴史に関する講座を開催いたします。

また30日土曜日には、夏休み親子ふれあい教室「手作り箱カメラで思い出を撮ろう」と題しまして、九州工業大学管理本部技術部技術専門員の荒川等先生を講師にお迎えし、箱カメラを作成し風景撮影を予定しております。定員は15組30名でございます。

次に図書館行事でございます。

7月20日水曜日から8月20日までの夏の好奇心応援セットの貸し出しを行います。夏休みの課題や、学習テーマ選びに役立つセット1袋3冊入を貸し出す予定でございます。

次に7月23日土曜日午前と午後に分けて、小学生夏休み一日図書館員として、図書館での仕事を体験していただきます。

定員は小学生3年生以上各組4名でございます。

次にハーモニーホールでございます。

7月17日日曜日、第三十七回なかまアマチュア寄席を開催いたします。入場料一般300円、定員40名を予定しております。

また社会教育施設でございますが、7月1日から9月10日まで屋島公園内の幼児用プールを開園することとしております。以上でございます。

片平教育長

ただいま社会教育施設行事の説明がございましたが、質問ご意見はございませんでしょうか。衛藤教育委員。

衛藤教育委員

スマホによるLINE入門講座を新しく計画されているということで、高齢者にとっては大変ありがたいことだと思います。例えば1日であれば、午前と午後で分かりますから全部で24名ということでしょうか。

亀井生涯学習課長

そうです。

衛藤教育委員

5月の行事予定のときに、5月18日に視聴覚教室でスマホの入門講座を、5月20日に地域交流センターでスマホの入門講座をされると、参加される方の地域にできるだけ近いところでやろうということで、視聴覚教室と地域交流センターで最初に開かれたと思います。この15日の入門講座と、27日の入門講座がその続きだと思うのですが、場所が第1研修室になっています。せっかく地域の人たちが参加しやすいようにと配慮いただいた分が、場所が変わっています。これに対して受講生にはどのような配慮をされたのかお尋ねします。

片平教育長

亀井課長。



亀井生涯学習課長	<p>初めてのスマートフォンの会場ということでよろしいでしょうか。</p> <p>これは5月からスマートフォンの入門講座を開催しまして、かなり好評をいただいておりますので、追加でこの講座を開催することになったところでございます。</p> <p>会場につきましては、地域交流センターも検討しましたが、会場の関係と空き状況等、講師の関係がありますので、今回は生涯学習センターで実施するというところでさせていただきます。</p>
衛藤教育委員	もう1点お尋ねします。30日のわくわく科学教室ですが、参加費と いうか材料代というものについては無料でしょうか。
片平教育長	亀井課長。
亀井生涯学習課長	無料で開催いたします。材料費につきましては、大学の方から提供していただくようになっておりますので、個人負担はございません。
片平教育長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは次の専決処分を報告し、承認を求めることについて、承認第10号学校歯科医の委嘱について、松永課長お願いします。</p>
松永学校教育課長	<p>中間東中学校の学校歯科医につきまして、遠賀・中間歯科医師会から、推薦されました中間市弥生一丁目にありますももぞの歯科クリニックの中山貴功様に、令和4年7月1日から依頼することにつきまして、中間市教育委員会事務専決規程第2条第1項の規定により、6月27日付けで専決処分いたしました。</p> <p>このことにつきまして、中間市教育委員会事務専決規程第2条第2項の規定により、委員会の承認を求めるものでございます。</p> <p>ご審議のほど、よろしく願いいたします。</p>
片平教育長	中間東中学校の学校歯科医を中山先生にということでよろしいでしょうか。
教育委員	《承認》
片平教育長	<p>承認ということで進めさせていただきます。</p> <p>その他について、北原課長お願いします。</p>

北原教育施設課長	<p>学校施設再編業務に関する報告をさせていただきます。</p> <p>中間市学校施設再編基本計画でお示ししました学校規模の組み合わせ案に、学校施設の配置案を加えた学校施設整備方針案の策定に向け、学校地等の敷地の現況や各種法令、条件等を整理し、学校地等の特性を整理した上で、学校施設の配置案を検討する支援業務につきまして、この度6月2日付けにて、八千代エンジニアリング株式会社九州支店と業務契約を締結し、関係事務を遂行しております。</p> <p>将来を見据えた本市の学校施設のあり方を検討するため、様々な施設において建設関係の業務実績のある事業者にご支援をいただきながら、当該業務を遂行してまいりたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
片平教育長	<p>よろしいでしょうか。施設について調査するということでございます。</p> <p>他はございますでしょうか。松永課長。</p>
松永学校教育課長	<p>物価高騰のニュースが続いていますが、6月定例教育委員会で審議していただきました、中間市一般会計補正予算第2号及び第4号で予算計上しました学校給食費の令和4年度値上げ分を補助する予算につきまして、6月28日に予算案が可決され、1年間分の補助を実施することとなりましたので、ご報告いたします。以上です。</p>
片平教育長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>今年度に入り、学校給食は好評を得ています。メロンが付いたり、給食の品数が増えたり、家庭でも随分話題になって子どもとの会話が増えたという保護者の皆さんもおられるということです。非常に良かったと思います。</p> <p>他にございますでしょうか。衛藤教育委員。</p>
衛藤教育委員	<p>北原課長がおっしゃった分で、各家庭に広報なかまで学校再編計画の概要版を配布されました。</p> <p>そのことにつきまして、市民の方から意見など、そういうことはございませんでしょうか。</p>
片平教育長	<p>北原課長。</p>

北原教育施設課長	<p>5件程度内容のお問い合わせがありました。</p> <p>「これで決まりなのでしょうか。」というようなお問い合わせがありました。これで決まりではない旨を伝え、今年中に住民説明会を開催することを検討している話をさせていただきました。</p>
片平教育長	<p>「1小、1中になるんでしょう。」という誤解のお問い合わせもあっているみたいです。</p> <p>そういったところについては、しっかりと1小、1中が決まったわけではなく、いろいろな意見から学校再編を決めていくんですよという回答をしております。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは協議事項に入ります。令和4年度教育委員会点検評価委員会に提出する点検評価シートについて、松永課長説明をお願いします。</p>
松永学校教育課長	<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、点検評価委員の意見を求めるため、令和3年度に教育委員会が実施した主な事業12件の実績につきまして、点検評価シートを作成いたしました。なお、今年度から、点検評価シートの様式を変更しております。</p> <p>これは、昨年度までの様式からなるべく見やすく、分かりやすくしていただきたいとの意見をいただきましたことから、他の自治体の様式を参考に検討しました結果、今年度から、福岡県教育委員会の様式を準用するようにしました。令和3年度の事業実績につきまして、4つの課で12項目のシートを作成して、事前に教育委員様にお配りしておりますので、時間の関係上シートの朗読は省略させていただきます。</p> <p>この12件のシートの内容につきまして、ご協議をよろしく願いいたします。</p>
片平教育長	<p>ただいま点検評価シートについて説明がございましたが、これについてご意見等はございませんでしょうか。衛藤教育委員。</p>
衛藤教育委員	<p>昨年度は16シートございましたが、それが今回は12シートに替えられた理由をお尋ねします。</p>

それともう1つ、昨年度の点検評価結果を教育委員会に議案としていただいた時には、この評価シートの前に「はじめに」、「点検及び評価の概要について」、「教育委員会の活動状況」が追加されていました。教育委員会の活動状況等についてというのは、我々も関係することが書かれていますので、できましたら来年度はその3つを付け加えて私どもに資料提示していただけたらという要望です。

片平教育長　いま質問と要望がございました。1点目の質問について、松永課長回答をお願いします。

松永学校教育課長　昨年までは16項目で、同じ表題が続いたのですが、毎年実施する事業が変わっていつていきますので、シートを毎年見直していきましょうということで、事務局で話し合いました、16項目ということで固定ではなく、その時その時の年度の主な事業を出していただくということで、シートの数が変わっております。教育委員会の実績については、検討したいと思います。

片平教育長　よろしいでしょうか。

衛藤教育委員　それぞれの評価シートについて、質問させていただきたいと思います。まず、生涯学習課の文化遺産の保存と活用について、資料の中で継続的な地域独自のまちづくりを進めることが期待できるというところがありますが、地域独自のまちづくりというのは、どういうものを我々はイメージすれば良いのか教えていただきたいと思います。

片平教育長　亀井課長。

亀井生涯学習課長　文化遺産の保存・活用という観点から、地域独自のまちづくりというのが、まず遠賀川と堀川それから遠賀川水源地ポンプ室などの川を中心にしたまちづくりというのをイメージして成果を求めると考えております。

衛藤教育委員　そうすると、世界遺産の活用も考えてられるわけですね。

亀井生涯学習課長	そうです。
衛藤教育委員	<p>分かりました。</p> <p>それでは次のシートについてお尋ねします。確かな学力の育成で教育指導充実支援利用状況という表があります。ゲスト・ティーチャー、スクール・アドバイザー、スポーツ・エキスパート、学習サポーターとあり、そこに実施された時間数や日数が書いてあります。学習サポーターが10日で合計8,000円となっています。他と金額が違うと思うのですが、どのように理解したら良いのでしょうか。</p>
片平教育長	森課長。
森学校指導課長	<p>学習サポーターというのは、学生の学習ボランティアという位置付けで行っております。学生さんが学校での業務支援を行い、学生にとっても教員を志す学生が対象ですので、自分の学びにもなるということで、いわゆるウィンウィンな関係で行っている事業であります。単価800円ということにつきましては、交通費ということで実費を負担する位置付けで行われているものでございます。</p>
片平教育長	よろしいでしょうか。
衛藤教育委員	<p>それでは、同じシートの課題と対応のところです。</p> <p>福岡県学力調査については、県を100とする標準化得点に届かない学校もあるというのは実態ですね。これは課題ではありません。</p> <p>それから、小学校低中学年及び中学校1年生の習熟に力を入れというのは対応だと思います。実態と対応は書いてあるけど、課題は書いてないです。学力面での課題はあると思うのです。</p> <p>課題は何かというのが1点と、それからもう1点は、昨年度までは学校評価について評議員の問題について触れてあったのですが、いろいろな人たちの力を借りながら学校教育を進めていくという方向に進んでますが、そういう意味では学校評価の評議員さんもいろいろな力を貸してあると思うのですが、これが今回触れていないです。何で触れていないのかというのが質問です。</p>

片平教育長

森課長。

森学校指導課長

まず1点目の課題は何かということですが、ここに表記しておりますが、課題というのは解決しなければならない問題というふうに捉えております。

県学力調査で、県平均に届いていないというところが、本市の学力向上に取り組みを進めるにあたっての解決すべき問題というふうに考えておりますので、これを課題として表記しております。

もちろん分析しますと、さらに細分化された議題が出てまいります。ここは学力の大枠の課題として表記をしておりますので、このようになっているところです。

それから2点目の学校評価学校評議員について、ここに今回表記がないことにつきましては、先ほど松永課長からもお話がありましたが、今回こちらを整理するにあたって、特に重点的に取組を進めた内容について、表記を変更しています。

評議員さんの活動による学校評価、こちらについても当然進めているところがございますが、今回特に力を入れている重点的に取組を行っている点が、今回表記をしているところで、今回の冊子には載っていないという形になっております。

片平教育長

よろしいでしょうか。

衛藤教育委員

教育委員会の中で学校評議員さんを承認いたしました。その面です。言ったら、評議員の力がいろいろな意味で学校に大きな力を及ぼしているということですから、その人たちの活動に支えられた部分もあると思いますので、私もそこは、何らかの形で書き入れるべきではないかと思っております。

それでは、次のシートについての質問です。施策番号3のICT活用推進事業の中のGIGAスクールサポーターの配置というので、本来GIGAスクールサポーターは、最初は2名の配置を考えてあったけど、いろいろな状況で1名の配置というふうになっていますが、シートの中に1回4時間×62回とあります。

その62回というのは、どこの学校に何回ほど行ったのかという学校別の内訳はないのかということと、それからもう1つ、指導用デジタル教科書はメリットとデメリットがあると聞いています。

デメリットをどのように解決されようとしているのかお尋ねしま

す。  
それから、G I G Aスクールサポーターが1人でされているということですが、負担増にならないかというのが心配な部分です。

今回は質問です。

課題と対応に、3年度は利活用の頻度に差が散見されたとあり、授業デザイナーを各学校から1名ずつ追加募集とあります。そして、利活用推進と実践に役割を分業するとあります。利活用推進はどういう役割があつて、実践はどういう役割があるのか、その具体的な内容について教えていただきたいです。

片平教育長

森課長。

森学校指導課長

まずG I G Aスクールサポーターの62回の内訳ですけれども、こちらは昨年度6ヶ月分です。各学校に毎月1回派遣しておりますので、各学校それぞれ6回ずつの60回、10校分で60回プラス委員会事務局の方で情報セキュリティに関する準備段取り等が必要でございましたので、こちらに対する業務で2回、合わせて62回の運用となっております。

それから2点目の指導者用デジタル教科書のメリットとデメリットのお話ですが、指導者用デジタル教科書のデメリットというところはないように思います。指導者用デジタル教科書は子ども用のデジタル教科書だけでは網羅されていない子どもの学びを補完する資料ですとか、発展的な問題とか、個別最適化された学びを支えるための様々な追加資料が含まれているものでございまして、教科書に準拠して使えるということが大きなメリットであると考えております。

こちらを使うデメリットというのは、本課としては認識しておりません。

それからG I G Aスクールサポーターの業務負担の件ですが、こちらはG I G Aスクールサポーターが全てを行っているわけではございません。基本的には運用しているのは教員です。

G I G Aスクールサポーターはあくまでもサポーターですので、例えば教員が教材を準備するときにこれどうしたら良いのかというお尋ねに対して答えたりとか、場合によってはトラブルが発生したときにすぐに対応していただいたりとか、教員に使い方の研修をしていただいたり、多様な活動をしていただいているのですけれども、

常時びっしり業務をしているということではなく、必要に応じた動きをしておりますので、1人にかかる負担が大きすぎる状況にないと認識をしております。

できれば人数が増えるとより学校も助かると思っていますので、そこについても検討は進めていきたいと考えております。

最後の授業デザイナーの役割についてですが、現在授業デザイナー研修で各学校から2名参加しております。

その中で、1年目から入っている教員を1期生、今回から入り始めた教員を2期生としております。

1期生として2年目に入った教員は、昨年度である程度のスキルを学び、習得してきておりますので、それらを使って学校でのICT活用の推進プランを作成したり、実際に研修を行って周りの先生方に使い方を広めていったりと、そういう推進役としての役割が基本となります。

そして2期生の1年目の教員につきましては、まずは自分がスキルをしっかりと身につけて、それを実際教室で子どもたち相手に実践をしていくという意味合いで、実践者という位置付けになります。これがもちろん習熟していけば、その後の推進者になったり、また推進者が行う研修において実践を披露する、公開授業を行ったりするなどで活躍するところを期待しております。

衛藤教育委員 利活用の推進者は、今のところ全ての学校に1名か2名おられるのでしょうか。

森学校指導課長 おります。

片平教育長 よろしいでしょうか。  
それでは、生徒指導推進事業ですがよろしいでしょうか。

衛藤教育委員 施策番号4の中のスクールカウンセラーの派遣のところで、スクールカウンセラーを4名任用したとありますが、中間市で任用したのでしょうか。

森学校指導課長 これは県との連携で任用しております。



衛藤教育委員	<p>分かりました。</p> <p>適応指導教室の中で入級できない状態があると課題と対応に書いてあります。今年に入級できないという状況は、続いているのでしょうか。</p>
片平教育長	森課長。
森学校指導課長	<p>いま現在は入級できないという状態ではございません。</p> <p>また、何人になったから一律に入級できないということではなく、可能な限りで受け入れられるようには考えております。ただどうしてもキャパというものがありますので、そことの兼ね合いで、できるだけ受け入れたいとは考えております。</p>
片平教育長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは施策番号5の特別支援教育推進事業についての質問はよろしいでしょうか。</p>
衛藤教育委員	<p>施策番号5 特別支援教育推進事業の課題と対応について、①特別支援教育支援員のさらなる充実が必要であるとあります。中間市は支援加配員を各学校に配置したりして、充実されていますが、それよりもさらなる充実が必要であるとあります。さらなる充実とは今後どのような充実を考えたら良いのでしょうか。</p>
片平教育長	森課長。
森学校指導課長	<p>ここに書いておりますように、子どもさんの特性というのは多様でありまして、1名の支援員の方で必ずしも全部対応できるかというところ、難しい場合もございます。</p> <p>今後可能であれば、複数名の配置であるとか、様々な障がい種に対応できるような配置ができれば、より良いのではないかと考えているところです。</p>
片平教育長	よろしいですか。
衛藤教育委員	それでは、その次の施策番号6の健康推進事業です。

私が気になったのは残食率です。昨年度も残食が多いということで整理をされていたと思います。パンの残食が多いから菓子パン等を入れてはどうだろうかと言ったのを覚えています。残食率を見ますと、中学生はパンが17.3%ということで、20%に手が届こうかという状況です。

今、日本も含めて世界的な問題でして、食物の残食を減らそうという動きが出ていると思いますが、いろいろな状況があつてこのような数字になっていると思うのですが、私が1つ気になっているのは、この前中間東小学校の学校訪問に行ったときに、今年の給食が非常においしいと、そして今まででなかったデザートも出るので、大変楽しみにしているということで、今年の給食については、大変楽しみに意見を聞いてきました。この残食率は昨年データですがから高いのですが、私が疑問に思っているのは、副食の残食率です。残食を減らす方法について、何かご検討されたことがあれば教えていただきたいです。

片平教育長

松永課長。

松永学校教育  
課長

残食は毎年課題になっておりまして、学校の関係者と話をしているのですが、小学校の時に食べたものを中学校で食べないという個人的なデータというのはございませんので、お答えはしづらいです。残食が特にパンが多いというのが、昨年までは給食費が圧縮されて、いろいろな献立ができなかったということで、パンも食パンだったのですけれども、食パンというのはなかなか今の児童生徒にあまり好まれなくて、これが、残食が多いというのがあります。それから、給食時間の問題です。食べる時間が早くない子は、やはり間に合わないから残してしまうとかいう問題もあります。あとコロナの時代になりまして、学校に出席しない児童生徒も何人かいらっしゃるとか、学級閉鎖だとか、不登校の問題もありまして、学校に来ていない子どもが何人か以前よりかはいらっしゃるということで、当然給食は作りますので、そこで残食が発生しやすくなっているというのが現状であります。

課題と対応の一番最後にも、コロナの影響による欠席者の残食も含まれるため、残食率が高くなる傾向がありますと書いていますが、今年度は令和3年度のことを踏まえまして、令和3年度中に給食費の改定を行いまして、献立を変えて、パンの種類も食パンだけでは

なくて、菓子パンにするとか、そういうことをやっています。  
そのような工夫で今から先は残食率が少しずつ減っていくよう取り  
組んでおります。

片平教育長 それでは、施策番号7について、ご意見はございますでしょうか。

衛藤教育委員 児童生徒健全育成事業のなかまっ子チャレンジ英検補助事業につい  
て、令和3年度は補助対象人数が488名とありますが、昨年度は  
584名だったので、昨年度の方が100名ほど多かったです。こ  
れはいろいろな状況でこのようになっていると思います。できまし  
たら488名の内訳を書いていたいただけたらという要望です。  
それから地域活動指導員設置事業に、地域活動指導員を2名配置  
し、学校、体育館、人権センターなどで各種事業を実施と書いてあ  
りますが、具体的なものとしてどのような事業を2名の方がされた  
のか教えていただきたいです。

片平教育長 亀井課長。

亀井生涯学習 まず2名の指導員を配置しまして、人権子ども会での定期的な学習  
課長 会、それから定例のレクレーションでのニュースポーツ教室、その  
他学習指導教室など実施しております。

衛藤教育委員 学校ではどういったことをされたのでしょうか。

亀井生涯学習 学校では、夏休みの学習教室などを5回実施するなど、あと学習指  
課長 導教室39回で主に北小になります。

片平教育長 それでは、施策番号8について、ご意見はございますでしょうか。

衛藤教育委員 学校教育施設整備事業の課題と対応のところに、「令和の日本型学校  
教育」とありますが、内容を詳しく教えていただきたいです。

片平教育長 北原課長。

北原教育施設 「令和の日本型学校教育」を一言で申しますと、全ての子どもたち  
課長 の可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現を目指す

ことでございます。

これは、国の中央教育審議会が平成31年4月に文部科学大臣から、新しい時代の初等中等教育の在り方についてということで諮問され、これを受けて令和3年1月26日に答申したものでございます。

本市におきましても、その実現のために将来を担う子どもたちに最適な教育環境を整備し、安全安心に学び、そして生活ができる環境の中で、教職員が愛情を持って指導支援にあたることができるように努めていきたい、その思いからここに記させていただきました。以上でございます。

片平教育長

よろしいでしょうか。

それでは施策番号9の社会教育施設運営管理についてですが、よろしいでしょうか。衛藤教育委員。

衛藤教育委員

生涯学習センターの運営管理のところですか。

去年、指定管理者制度になっておりましたので、指定管理者のところで分からないところが、文化・教養・スポーツ・健康など76講座を実施しましたと数字がきちんと入っています。私どもが教育委員会の中でお尋ねしたのは、西日本医療福祉総合センターが特別講座という形で、料金を取って参加した分であれば、10講座以内だったと思うので、それが76講座されているというのは、これはその委託業者が全部したのか、それとも生涯学習センターの行事も含めてなのかお尋ねしたいと思います。

片平教育長

亀井課長。

亀井生涯学習課長

衛藤教育委員のおっしゃるとおり、この講座につきましては全て西日本医療福祉総合センターの独自事業になっております。

片平教育長

よろしいですか。

それでは、施策番号10の中央公民館事業をお願いします。

衛藤教育委員

令和3年度事業の基本的なねらいのところ、市民ニーズを踏まえた講座を企画し実施するとあります。

市民ニーズを踏まえたというのは、市民がいろいろなニーズがある

のだろうと思うのですが、これはどのような形で市民のニーズを把握されたのかということと、その把握されたものはどのような形で講座に活かされたのかということについての質問です。

片平教育長

亀井課長。

亀井生涯学習  
課長

まず講座を開催した際に、参加者の皆様にアンケート調査を実施しております。その中に、希望の講座内容等を書いていただいで反映させているという状況であります。

衛藤教育委員

取組のところで、講座数10講座とありますが、例えば世界そげなこと講座は全4回で延べ人数が89人ですから1回あたり22から23名です。成人講座は、6回で312名ですから1回あたり50名程度です。リフレパークについては、全5回で45名ですから1回あたり9名程度、それから親子わくわく教室については、夏が1回、冬が2回で延べ講座90名ですから、1回30名ということになると思います。デジタルタブレット講座については、1回あたり受講者10名とあります。講座によって参加人数が非常に違います。

いわゆる座学講座の場合は沢山の人数が参加できるでしょうし、実習というのですか、手づくりとかそういう作業の伴ったものについては、人数が少ない方が、より効果的に講座が運営できるのだと思いますが、これをもう少し1講座について参加人数を増やしていくということは、難しいのでしょうか。

片平教育長

亀井課長。

亀井生涯学習  
課長

リフレパークにつきましては、子育て中のお母さま方を対象にしております。講師もそれぞれ検討しながら講座をやっています。なかなか、デリケートなお母さま方もいらっしゃいますので、人数をなるべく少なめにとという配慮をして、開催しているところでございます。

衛藤教育委員

それでは、施策番号11の生涯学習スポーツ振興事業の中に総合型地域スポーツクラブの活動支援とありますが、ここで中間高校と希望が丘高校の生徒の力を借りて、未就学児と児童を対象に月1回活

	<p>動支援を実施されているということですが、具体的にはどのような内容でしょうか。</p>
片平教育長	<p>亀井課長。</p>
亀井生涯学習課長	<p>中間高校と希望が丘高校の部活動の生徒の皆さんにご協力いただきまして、各種目陸上であったり、タグラグビーであったり、卓球、駅伝、その他諸々スポーツの種目を未就学の子どもと児童に体験していただくような教室を開催しております。</p>
衛藤教育委員	<p>未就学児でそういう種目に対応できますでしょうか。</p>
片平教育長	<p>亀井課長。</p>
亀井生涯学習課長	<p>体を動かすような体験ですので、本格的なそういう競技ではなく、ボール遊びだったりとか、走り方とか、そういった内容になっております。</p>
衛藤教育委員	<p>最後になりますが、施策番号12の学校施設開放事業の中の成果のところでは、</p> <p>昨年度と比べましたら、5つの項目、使用料収入、登録団体数、解放日数、件数、人員とあります。人員以外は令和2年度より上回り、人員だけが3,000人ほど減っています。</p> <p>なぜ人員だけ減っているのか、大変気になりますので教えてください。</p>
片平教育長	<p>亀井課長。</p>
亀井生涯学習課長	<p>この人員につきましては、利用の延べ人数でありまして、まず要因としましては、コロナ対策で体育館での各試合の中止というので人数が減っていることと、登録団体の人数、団体そのものの登録人数が減少している傾向がございますので、この数字に反映されていると思います。</p>
衛藤教育委員	<p>昨年度は49団体だったのが、今年59団体で10団体増えていますが1団体の人数が減ったということでしょうか。</p>

亀井生涯学習課長	各団体の人数の減少があります。
衛藤教育委員	分かりました。
片平教育長	点検評価シート全体としては、よろしいでしょうか。
衛藤教育委員	全体としては、昨年度と比較すると今年の方が整理されて見やすいと思います。私はこの形式に変更して良かったと思っています。
片平教育長	それではよろしいですか。 それでは次に入ります。 令和4年8月の定例教育委員会の日程について、松永課長お願いいたします。
松永学校教育課長	8月の教育委員会の日程につきましては、8月2日火曜日午前10時を予定いたしております。ご協議をお願いいたします。
片平教育長	ただいま8月2日火曜日10時からということで、よろしいでしょうか。
教育委員	《了承》
片平教育長	それではその日程で進めさせていただきます。 3点目その他よろしいでしょうか。 ないようですので、これを持ちまして令和4年7月の定例教育委員会を終わります。お疲れさまでした。

[閉会時刻：11時10分]

令和 4 年 10 月 4 日

教育委員 衛藤 修身

教育委員 河本 道子